

新宿区は平成 4 年からミッテ区と友好都市を結び、特に青少年交流に力を入れ友好を深めてきたと聞き及んでおります。

未来へと続く歴史が、不当に歪められてしまえば、先祖の御霊が傷つけられるばかりでなく、将来を担う青少年にも甚大な被害を与え、日本の未来に対しても暗澹たる結果をもたらすことになってしまいます。

新宿区におかれましては、是非とも、新宿区と同じミッテ区の友好都市である大阪府東大阪市、島根県津和町を始め、全国の地方自治体とも連携し、未来ある青少年を不当な歴史ねつ造から守っていただくことを強く望みます。

永久的な像の設置を求める決議案も、現在のところ、令和 3 年 9 月 21 日までとするもので、以降の設置の継続については、ベルリン行政裁判所の判断により決定するものとなっていますが、圧倒的多数のミッテ区議会議員が永久的な像の設置に賛成していることから、新宿区を始めとする日本の地方自治体の長年の友好関係も虚しく、大変厳しい状況にあると言わざるを得ません。

さらにコリア協議会は『この像の意味が理解されれば、永久的な設置に向けて理解が得られる』と断言しており、ここで強くミッテ区に働きかけなくては、新たな像の設置を招き、日本の国際的な立場や国力が大きく損なわれます。

日本からも情報を発信し、歴史ねつ造には事実を挙げて対抗することは言うまでもありません。そして何より我が国を毀損する行為には怒りの抗議が必要です。

大阪市では、平成 29 年に米国サンフランシスコ市において反日ヘイト像及び碑文が設置されたことを受け、怒りの抗議を示すために、平成 30 年に 61 年にも及ぶ友好都市解消を決定しました。

日本を不当に陥れる憎悪や日韓の問題が、関係のない第三国に飛び火したのは非常に残念なことですが、謂れなき誹謗中傷に耐えてまで結ぶ友好関係など偽り以外の何物でもなく、一見強引とも思える友好都市解消は、不当な歴史ねつ造に抗う日本人の覚悟の現れとして、日本の名誉や国力の回復に大きく貢献することに繋がると考えます。

新宿区は友好都市であるからこそ、撤去を求める責任があります。友好都市解消をも辞さない構えで強く抗議し、撤去を求める義務があります。

いち早く書簡をミッテ区に送っていただきました吉住区長の判断は、全国の地方自治体にも響き、不利な状況に置かれてながらも、かつてないほど広がった撤去を求める取り組みに繋がったと思います。